

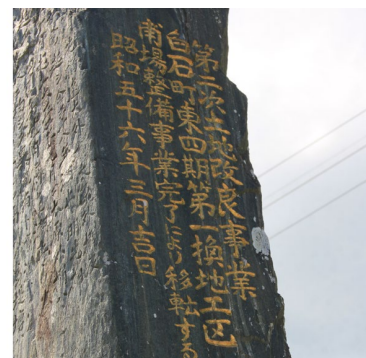
番号	124	大豊耕地整理記念碑 佐賀縣知事正五位勲四等 齋藤行三書		
所在地	白石町築切			
災害別	大正 3 年（ 1 9 1 4 ） 高潮			
目的別	記念碑	建立年	大正 1 5 年	
特記事項	碑文の一部判読不能			



大正3年（1914）8月25日の高潮は、有明海沿岸に大きな被害をもたらした。佐賀県災異誌に載せられている当時の佐賀新聞の記事によれば、その被害は著しく、「この高潮の被害は創立以来のもの」と報じている。

有明海沿岸の干拓地には、この碑をはじめ当時の高潮について記した碑や仏像などを多く目にする。なお、この大豊耕地整理記念碑は、圃場整備に伴い元の場所から現在地に移転されたことが記されているが、以前どこに建てられていたかは不明。

「按するに大豊耕地整理組合は大正八年十一月二十七日北有明村内日露堀明五堀明先堀遠太外堀及南有明村大正堀の六工區を以て組織され其日露堀は明治二十九年の秋工を起し全三十八年潮止め明先堀は明治口十年十月起工全四十二年十月潮止め太外堀は明治三十年十月起工大正二年九月に太外堀は明治四十三年九月起工大正三年九月に大正堀は明治十一年起工全四十四年





何れも潮止めを為す而して各工區共起工と潮止を異にすると 雖^{いふど}も皆是れ有明海に直面する故に均しく暴風雨と高潮との為め堤塘を破壊され災害を蒙りしこと幾十回なるを知らず就中大正三年の如き未曾有なる高潮の為堤塘は其根底より破壊され最も悲惨口愴を極めたることは 當時^{とうじ}を追懐するだに戦慄を禁じ得ざるものあり然れとも各組合員は幾十年口亘りて多大の経費と幾多の勞力を惜まず常に口性的氣概を發揮^{はつき}し暴風雨と戦ひ高潮と闘ひ 不撓不屈^{ふとうふくつ}の熱誠を以て復旧に心力を傾注し全く自然力の暴威を征服し工を了したるを以て大正十五年八月縣當局は之を縣費支 辨^{べん}の堤塘に編入せり是れ 實^{じつ}に各組合員の周到なる用意と熱烈なる努力に基因するや言を俟^{まち}たす六組合員一同相謀り一基の碑を建て之を後世に 傳^{つた}へ永く其の偉績を記念とする所以なり嗚呼偉なる 哉^{かな}一望萬項の新田は豊耕の利源を開拓し五穀の豊穰を扶殖せん 焉^{これ} 大正十五年孟秋 大豊耕地整理組合長遠藤十郎撰」(原文はカタカナ表記)

(側面)「第二次土地改良事業 白石町東四期第一換地工区 甫場整備事業完了により移転する 昭和五十六年三月吉日」

(台座) 組合長以下役員等氏名 (略)



国土地理院電子国土 Web

